

学校の教育目標：確かな学力と豊かな心を身につけ、何事にも自ら考え行動できる児童の育成

育成を目指す資質・能力：言語能力 問題発見・解決能力

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	担当
<p>【生きて働く「知識・技能」の習得】</p> <p>児童の基礎・基本を身につけた</p>	<p>【知】5</p> <p>○単元末テスト(国算理)の学年平均点 ・1～3年:85点以上 ・4～6年:80点以上</p> <p>○単元末テスト(国算理)の個人平均点 ・40点以下 0人</p> <p>○「国語(算数・理科)の勉強ができるようになった」 ・児童A評価:100人以上 (100人は全児童の約77%)</p>	<p>学校</p> <p>○習熟度に合わせた学習指導の実践</p> <p>○授業参観チェックシートを活用した研究授業・互見授業の実施</p> <p>○基礎・基本の定着をめざした、特設指導時間の実施</p>	<p>○授業者は、算数科における習熟度別指導を行う。 ・複数学年で実施する。</p> <p>○授業者は、努力を要する児童に対する手立ての工夫に取組む。 ・児童の実態に即した具体的手立てを行う。</p> <p>○教員は、研究授業・互見授業に参加し、授業改善に取組む。 ・2学期中に研究授業1回・互見授業2回実施し参加する。 ・校内研修で事後研究会を行う。</p> <p>○全教員で、八幡塾を毎週火曜日放課後に、スキルタイムを毎週金曜日の朝に実施する。 ・複数指導体制 ・習熟度を加味したプリントの活用</p>	<p>学力づくり部(幸・今西・橋・森田)</p>
		<p>家庭</p> <p>○家庭学習の定着と支援</p>	<p>○保護者は、家庭学習強化週間を学期2回取組む。 ・PTA研修部が企画し実施する。 ・「家庭学習がんばりカード」を活用して、親子で学習内容を点検する。</p>	
		<p>地域</p> <p>○学校運営協議会での学力向上に関する協議の実施</p>	<p>○学校運営協議会の委員は、小中の学力向上に向けて協議する。 ・大分県学力定着状況調査結果の分析や指導法を協議する。 ・小中両校の取組について協議する。</p>	
		<p>学校</p> <p>○「話し合い活動」を設定した授業実践</p> <p>○算数科と理科に活用力向上を図る活動を位置づける</p>	<p>○授業者は、毎日1時間以上、児童に考えさせたいことやつけたい力を明確にした「話し合い活動」を設定した授業を実践する。</p> <p>○授業者は、算数科と理科の授業の終末に「活用力向上を図る活動」を位置づける。 ・活用問題に取組む時間を設定する。 ・条件をつけた書く活動を設定する。</p>	
<p>【未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成】</p> <p>互いの思いや考えをもち、育ちあうことができる</p>	<p>【知】</p> <p>○単元末テスト(国算理)の「思考・判断・表現」の観点評価 全学年 ・A評価が16項中12項以上</p> <p>○「自分の考えをまとめたり、発表したりすることができた」 ・児童A評価:100人以上</p> <p>○「進んで読書活動に取り組んでいる」 ・児童AB評価:100人以上</p>	<p>学校</p> <p>○話し合い活動を設定した授業実践</p> <p>○算数科と理科に活用力向上を図る活動を位置づける</p>	<p>○授業者は、毎日1時間以上、児童に考えさせたいことやつけたい力を明確にした「話し合い活動」を設定した授業を実践する。</p> <p>○授業者は、算数科と理科の授業の終末に「活用力向上を図る活動」を位置づける。 ・活用問題に取組む時間を設定する。 ・条件をつけた書く活動を設定する。</p>	<p>心づくり部(菅海・西島・柴田)</p>
		<p>家庭</p> <p>○家庭読書の習慣化</p>	<p>○保護者は、家庭読書を毎月2回取り組む。 ・PTA研修部が企画し実施する。 ・「ファミ読カード」を活用し、読書の感想を親子で話し合う。</p>	
		<p>地域</p> <p>○図書館支援活動の実践</p>	<p>○図書館ボランティアは、図書館支援活動に取組む。 ・図書館整備活動 ・移動図書館「こぐま号」の支援</p>	
<p>【学びに向かう力・社会性等】の涵養】</p> <p>自ら課題を見つけて、課題解決に協働して取り組む児童の育成</p>	<p>【徳】</p> <p>○「地域の人材や素材を活用した体験活動を積極的に行っている」 ・教員AB評価90%以上</p> <p>【体】</p> <p>○「チャレンジタイム」(1校1実践)で、自分の目標が達成できた ・児童A評価:100人以上</p> <p>○「早寝・早起き・朝ご飯ができています」 ・児童AB評価110人以上</p> <p>○「歩いて登校をしている」 ・児童AB評価110人以上</p>	<p>学校</p> <p>○地域人材や素材を活用した学習の実施</p> <p>○縦割り班掃除の推進</p> <p>○チャレンジタイム(1校1実践)の推進</p>	<p>○授業者は、ふるさと創生として、学期に2回以上地域学習を実践する。</p> <p>○教員は、毎週月水金曜日に、縦割り班掃除を実施し、6年生を中心に協力して掃除ができるように指導する。</p> <p>○体育担当は、担任と連携して、チャレンジタイムを実施し、児童が目標を達成できるよう指導する。 ・2学期は、マラソン大会関連の運動に取組む。</p>	<p>(岩男・高橋・村上)</p>
		<p>家庭</p> <p>○早寝早起き朝ご飯の徹底</p> <p>○徒歩通学の徹底</p>	<p>○保護者は、家庭での「早寝・早起き・朝ご飯」のきまりを子どもと一緒に設定して実践をし、月1回振り返りをする。</p> <p>○保護者は、毎日、児童を歩いて登校させる。</p>	
		<p>地域</p> <p>○地域学習への授業支援</p>	<p>○地域のゲストティーチャーは、毎月、2コマ以上、地域学習に参加する。</p>	<p>心づくり部</p>
		<p>業務改善の推進</p> <p>○月平均の時間外勤務時間を45時間以内にする</p> <p>○「効率的な働き方に努めている」 ・教職員AB評価100%</p>	<p>学校</p> <p>○行事、会議等の見直しと改善</p> <p>○タイムカードを活用した、時間外勤務時間の管理と指導</p> <p>○月2回の「ノーマルデー」の実施</p>	<p>○学校教育目標に沿った行事の精選と縮小化を図る。</p> <p>○校長・教頭は、タイムカードを活用し、月平均の時間外勤務時間が45時間を越えないよう呼びかけや指導を行う。</p> <p>○教職員は「月2回のノーマルデー」に取組む。</p>
<p>家庭</p> <p>○PTA活動への積極的な参加</p>	<p>○PTA活動への積極的な参加</p> <p>○PTA専門部は、学期に2回以上、教育活動を支援する活動に取組む。</p>			
<p>地域</p> <p>○学校運営協議会の活用</p> <p>○学校支援活動の推進</p>	<p>○学校運営協議会は、学期に1回以上、学校の教育活動の改善につながる協議を行う。</p> <p>○学校運営協議会は、学期に1回以上、PTAと連携して、教育活動を支援する活動に取組む。</p>			